

群馬県立しろがね特別支援学校 学校評価一覧表② (平成30年度版)

(様式2)

羅 針		盤	関係する分掌等	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①学校のホームページを毎月10回以上更新する。	情報教育	A	A	A	・各クラスの様子が分かるように「しろがねの日常」ページに学校生活の様子を積極的に掲載するようにクラス担任に依頼した。	・「しろがねの日常」のようなコーナーを他に設けて、より具体的に児童、生徒の活動内容が分かるようなサイトを増やしていく。
		②PTA活動の参加率が70%以上である。	PTA	B	B	B	・PTA奉仕作業や役員会は保護者が参加しやすいよう時間を工夫するとともに、早めの情報を発信に努めた。学校ホームページにも活動の様子を載せるようにした。	・保護者の負担にならないよう行事の精選につとめ、会議の時間も短時間で済むように資料は早めに用意して配付する。学校ホームページを情報発信の手段として活用していく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③「個別の教育支援計画」について、保護者の90%以上が内容に満足している。	校内支援	A	A	A	・保護者面談及びケース会議において、指導・支援の成果や児童生徒の変容を保護者に丁寧に伝え、今後の課題や指導内容などについて話し合いを行った。	・新入生に対しては、入学式の後の保護者面談において生徒についての情報や保護者の願いなどを聞き取りやすいようなシートを作成し活用する。
		④交流及び共同学習について保護者や関係機関の90%以上が有用であると感じている。	校内支援	A	A	A	・相手校と連絡を密に取り、相互に有意義な交流内容を考えていくとともに、本校や相手校の職員、生徒にアンケートをとり、その結果をもとにしてよりよい交流内容にしていこうとした。	・交流相手校の担当者と連絡を密に取りながら新しい交流内容を一緒に考えていくようにする。
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤小中学校等から依頼された相談件数のうち、改善が見られた割合が95%以上である。	校外支援	B	A	A	・依頼校の校風と担当の教師の指導力、クラスの雰囲気を考えて、具体的な指導内容や方法を伝えた。併せて、面談において、保護者への家庭での取り組みについて提案した。	・困難事例については、学校や園全体で取り組めるように、明確に役割を提案していく。
		⑥小中学校等からの要請で、校内研修やケース会議等の講師を年4回以上実施する。	校外支援	B	A	A	・ケース会議では、事前に依頼校の管理職の考えを聞き、ある程度の方向性を調整してから実施した。	・校内研修での講演について、グループワークを用いて、参加した先生方がたくさん発言できるように工夫する。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦「個別の指導計画」の内容について、保護者の80%以上が満足している。	学習指導	A	A	A	・ケース会議や保護者面談を通して、個別の指導計画の内容について保護者や学園職員と確認した。	・今年度同様、個別の指導計画を保護者に配付し、内容の確認や検討を行い、共通理解を図る。
		⑧各学部が連携した指導を行うために、学部間の交流学习を年2回以上実施する。	学部主事	B	B	B	・小学部の児童は中学部の就業体験の見学と体験を、中学部の生徒は高等部の進路ガイダンスや高等部生徒が実施した「作業学習」の説明見学会に参加するなど、学部間の交流学习を行った。	・今年度の反省を踏まえ、学部間の交流学习の内容や機会が増えるように検討していく。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が90%以上である。	学習指導	A	A	A	・ケース会議や保護者面談を通して、個別の指導計画の目標について、保護者や学園職員と確認した。	・今年度同様、個別の指導計画を保護者に配付し、保護者の願いや児童生徒の実態を踏まえた目標になるように検討していく。
		⑩年間指導計画の見直しを学部学年で検討する機会を年に3回以上実施している。	研修	B	A	A	・年間指導計画の実践記録を学期ごとに提出してもらい、記録の付け方について改善してもらうように働きかけた。また研修日に学部や学年でも検討してもらい見直しや修正を行った。	・児童生徒の実態を考えつつ、小・中・高の関連が図れるような年間指導計画になるよう働きかける。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑪児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、学期に1回以上保護者と情報交換を行っている。	保健	A	A	A	・ケース会議や連絡ノート、送迎時の時間を活用して健康に関する情報交換を行った。	・ケース会議や学校行事、また連絡ノートや送迎時の時間など様々な機会を活用して情報交換を行う。
		⑫各学期ごとにサロン清掃、月末職員清掃、除草作業、年1回ワックスがけを行う。	環境美化	B	B	B	・重点清掃箇所を提案し協力して環境美化に努めることができた。	・年度末、教室の環境を整えて、次年度に引き渡しできるように呼びかける。ワックスがけや除草作業、職員清掃を継続して行い、校舎内外の環境美化に努めていく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑬心肺蘇生法の講習会や救急対応訓練等を年4回以上実施する。	保健	A	A	A	・全職員による講習会や訓練を行うとともに、担当の職員で校外学習など想定できる場面での動きについて確認を行った。	・全職員対象に緊急対応訓練を実施するとともに、校内の体制を見直し、組織的に対応できるようにする。
		⑭全教職員が緊急時対応訓練に年間3回以上参加し、具体的な対応について理解できる。	管理	A	A	A	・地震避難訓練、不審者対応訓練、総合避難訓練、引き渡し訓練を実施した。夏期休業中に職員防犯訓練、普通救命講習会を実施し、専門機関から指導を受けた。	・引き続き、警察、消防など専門機関と連携を図り、指導を受けることで職員の危機管理意識を高めていく。地震避難引き渡し訓練は年度の早い時期に実施し、関係する機関と連携を図っていく。
⑮いじめの未然防止に向けた取組について、保護者の90%以上が満足している。		生徒指導	A	A	A	・生徒会活動を通じたあいさつ運動、学期毎の教育相談週間を実施することができた。また、なかよしアンケートを実施したことで、いじめの早期発見や早期解決に繋がるケースがあった。	・なかよしアンケートの内容や実施方法等について見直しを行っていく。 ・いじめの認知について、教職員の共通理解を更に深めていく。	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑯キャリア教育の視点に立った授業を年間3回以上行っている。	進路指導	B	A	A	・キャリア教育の視点に立った授業に関する相談や質問があれば応じる。	・キャリア教育の視点に立った授業案を提示する。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑰進路関係の行事や学校からの情報について、保護者の80%以上が満足している。	進路指導	A	A	A	・進路だよりの内容をさらに充実させたり、要望があれば保護者面談に進路指導主事が参加したりする。
	⑱進路先や関係機関との連携について、保護者の80%以上が満足している。		進路指導	A	A	A	・進路先や関係機関との情報交換を計画的に進め、情報交換の結果を保護者に知らせる。	・進路先や関係機関との情報交換を密に取り、情報交換の結果を保護者に知らせる。とくに、高等部校外就業体験の事業所からの評価表を進路指導に生かす。